

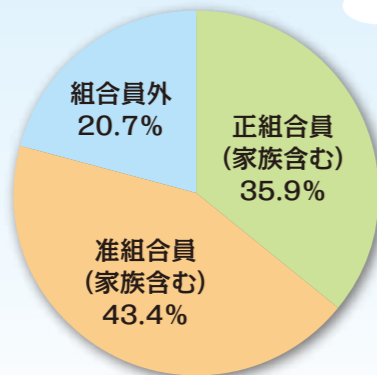
准組合員って
どんな存在？

事業利用から見た准組合員制度の重要性

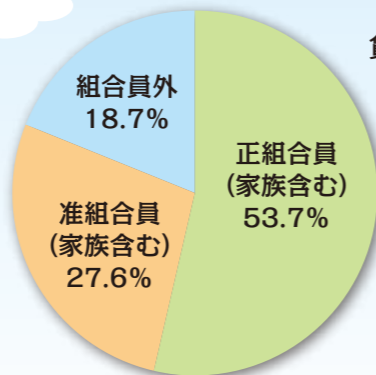
准組合員は、JAの事業を利用したり、地域の農畜産物を食べるなどを通じて、正組合員とともに、地域の農業とくらしを支える存在です。

当JAの事業のうち、貯金残高・貸出金残高の割合は以下の通りとなっています。

貯金残高：3,168 億円
内) 正組：1,137 億円
准組：1,373 億円
員外：656 億円



貸出金残高：765 億円
内) 正組：410 億円
准組：211 億円
員外：143 億円



- 正組合員の事業利用に加え、准組合員が事業を利用することで、JAの経営が安定し、農業関連事業の実施や地域に必要な生活サービスの維持が可能となります。

【准組合員制度は地域の農業やくらしを支える大切な制度です】

※上記は平成30年9月末日現在の残高で、正組合員・准組合員それぞれ家族分を含んだ金額となります。端数を切捨処理しているため、内訳の合計は一致しません。

JA東京みらいは農業者の所得増大を図り、都市農業と農地を守ります。

農業支援ローン

はじめの10年間は
金利負担なし 利子補給制度
適用の場合

平成33年12月31日実行分まで

農業支援ローンの概要

| | |
|-------|--|
| 融資対象者 | 正組合員、正組合員の家族および法人 |
| 対象資金 | 農業経営に必要な資金 |
| 融資金額 | 10万円～1,000万円(無担保の場合) 10万円～5,000万円(有担保の場合) |
| 融資期間 | 15年以内 |
| 融資金利 | 借入日より10年間 金利負担なし 10年後、固定金利型 年1.00% |

※利子補給限度枠に達した場合は、本制度の適用を中止する場合があります。

詳しくは、JA東京みらいHPまたはお近くの支店窓口まで

農業体験農園を開園してみませんか？

農業体験農園とは、単に農地を提供するだけの市民農園とは異なり、プロである農家(園主)が野菜づくりを指導するカルチャースクールです。当JAでは、開園準備から講師の派遣にいたるまで幅広くサポートいたします。

＼農業体験農園にはメリットがたくさんあります／

- 安定した農業収入が得られる
- 労働の負担を軽減
- 入園者の満足と農業理解の醸成
- 地域との絆が深まる
- 税制の特例が継続
- 農業後継者の確保

1つでも気になる方には…

JA東京中央会が農業体験農園について分かりやすくまとめた冊子「魅力ある農業経営 開園してみませんか!! 農業体験農園」をお渡しいたします。

お気軽に各支店指導経済課までご相談ください。



認定農業者を訪問する櫻井喜吉組合長(中央)ら

JA東京みらい広報誌

Mirai

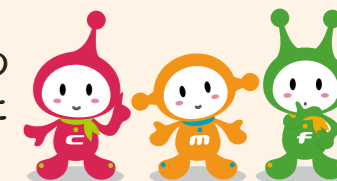
2018

自己改革
特集号

JA東京みらい自己改革 組合員の声を組織運営に反映

当JAは、組合員の意見をJAの組織運営に反映するため、認定農業者の個別訪問をはじめ、支部長夏期研修会、地区別座談会、各組織(青壮年部、女性部、みらいの会、生産団体協議会、直売会)との意見交換会を行っています。

この特集号では、当JA3か年計画「JA東京グループ自己改革の実践～農業者の所得増大と都民理解の醸成～」の目標達成に向け、平成28年度～平成30年度に取り組んでいる内容の一部をご紹介します。



東京みらい農業協同組合
〒203-0052 東京都東久留米市幸町3-7-2
Tel.042-477-0031(代)

本誌に関する
お問い合わせ

本店 指導経済課
TEL:042-477-0037 FAX:042-477-7214
Eメール:shidouka3_mirai@mirai.jatokyo.or.jp



JAホームページはこちら

facebookはこちら



※掲載したイラストや写真は全てイメージです。

JA東京みらい

自己改革の実践



オリジナル冷凍野菜餃子『ぽてまる』を販売

当JA初の6次産業化商品。低利用農地で栽培された馬鈴薯をメインに、市場出荷終了後のキャベツ、規格外のニンジンを使った冷凍野菜餃子です。今後も農業者の所得増大を目指し、管内の農産物を使った6次産業化商品の開発に取り組んでまいります。

- 6次産業化への取り組み
- 低利用農地対策
- 地域ブランド・特産品への取り組み

パッケージには当JAキャラクター「フューチャーズ」を起用▶



組合員大学「みらい塾」を開講

JA運営や協同組合活動の理解促進、将来のJAを担う組合員人材育成を主たる目的として、組合員大学「みらい塾」を開講しています。1期2年間、全10回の講座で学ぶカリキュラムになっています。

- 組合員学習活動を通じたJA帰属意識の促進

買い物困難地域で 移動販売を開始

買い物困難地域の消費者支援として、「新鮮館」の移動販売を開始しました。順次、開催場所を増やし、買い物困難者支援などを通して、都民理解の醸成を図ります。

- 都民理解の醸成
- 新たな販路の拡大



東京都内の新鮮野菜を 学校給食へ

農地のない区部（新宿、中野、江東、台東）の小・中学校に、学校給食の食材として東京都内の新鮮野菜を供給しています。

- 都民理解の醸成
- 新たな販路の拡大

新鮮館（直売所）イベントで集客力アップ

各新鮮館（直売所）では、苗まつりや七夕セール、収穫祭など、直売会主催のイベントをはじめ、JA職員が提案した各種集客イベント（エコープマーク品の試食会や新茶の試飲会、ご当地駅弁大会、いちごフェアなど）を数多く開催しています。開店前から来店客が列をつくるほどにぎわい、集客力アップにつながっています。

- ファーマーズマーケットを拠点とする販売力強化

写真は①いちごフェア（みらい東村山新鮮館）、②ご当地駅弁大会（保谷支店農産物直売所）、③春の苗まつり（みらい清瀬新鮮館）



巡回訪問で 農業に関連する情報を提供

農業電子図書館（タブレット端末）を活用して、販売農家を中心に巡回訪問を実施しています。内容は新品種の紹介や農薬のアドバイスなど多岐にわたります。

- 営農指導機能の強化



担い手サポートプランで 農業生産コストを削減

農業生産コスト削減対策として平成29年度からJA東京みらい担い手サポートプランを設け、年2回（秋・春）、肥料・農薬共同購入時に供給金額（税抜）の5%を助成しています。

- 農業を支える新たな仕組みづくり



顧問弁護士・税理士と連携した各種相談会を開催

組合員限定で無料の相続、法律、税務相談会・関連する研修会や顧問税理士による相続税試算により、事業承継のサポートを行っています。

- 相続・事業承継の支援



ブランド化で 管内の農産物をPR

糖度の高い「スイーツキャベツ」^{*}のブランド化を図っています。また「みらいのやさい」旗を作成し、JA管内でとれた農産物を各所でPRしています。

^{*}糖度9度（年内どりは糖度8.5度）以上のみ、東京スイーツキャベツとして認定されます。

- 地域ブランド・特産品への取り組み

